

THE JOURNAL OF
SOCIAL SCIENCES AND HUMANITIES
(JIMBUN GAKUHO)

EDITED BY

The Graduate School of Humanities
Tokyo Metropolitan University
1-1 Minamiosawa, Hachioji-shi, Tokyo

No. 520-2

March, 2024

CONTENTS
Social Anthropology 17

Still Writing and Laughing :

Through Junko Naito's "Ethnography of the Insignificant:
Anthropology on the Reality of Development Support in Chile"
.....Sachiko TANUMA (1)

The Concept of the Vernacular as an Interface between Cultural Anthropology and
Folkloristics
..... Masaharu KAWANO, Shinji TSUKAHARA, and Yutaka SUGA (23)

Should Ritual Slaughter be Reformed? :
Traditional Customs of Hui Muslims at Slaughterhouse in Modern and
Contemporary China. Mitsuo SAWAI (43)

人
文
学
報

人文学報

No. 520-2
社会人類学教室 17

それでも書く、そして笑う

——内藤順子『取るに足らないものたちの民族誌 チリにおける開発支援をめぐる人類学』
を通じて——田沼 幸子 (1)

結節点としてのヴァナキュラー概念

——文化人類学と民俗学の対話可能性に向けた一試論——
..... 河野 正治 ・ 塚原 伸治 ・ 菅 豊 (23)

屠畜は<改革>されるべきなのか

——近現代中国の屠場における回民の伝統習俗——澤井 充生 (43)

第五二〇二号

東京都立大学人文科学研究科

東京都立大学人文科学研究科

2024.3

2007年7月1日制定

2022年5月19日改定

東京都立大学『人文学報（社会人類学教室）』投稿規定

- (1) 本誌には、論文のほか、卒論・修論・博論一覧表、教員業績一覧、学事日程を載せるものとする。また本誌編集会議の合議により、上記以外の特集や記録なども載せることができる。
- (2) 本誌には、社会人類学教室教員等（教授、准教授、助教、非常勤講師、客員研究員、博士研究員、専門研究員）が論文を日本語または英語で執筆することができる。
- (3) 本誌には、東京都立大学大学院社会人類学教室在籍者（博士前期課程・博士後期課程）および本教室に籍を置く日本学術振興会特別研究員が論文を日本語または英語で投稿することができる。
 - (3)-1 上記有資格者が投稿しようとする論文は、指導教員および社会人類学教室教員の最低2名による査読・評価を経て推薦を得ねばならない。
 - (3)-2 上記在籍者の投稿論文の採否は、社会人類学教室専任教員が構成する本誌編集会議の議を経て決定する。
- (4) 投稿論文は未刊行のものに限る。
- (5) 本誌投稿規定および執筆要領の改廃は社会人類学教室会議の合議により行う。

2007年7月1日制定

2020年4月9日改定

東京都立大学『人文学報（社会人類学教室）』執筆要領

- (1) 投稿論文は、400字詰め原稿用紙に換算して50～60枚を、英文の場合は8,000ワードを限度とする。写真・図表も字数に含めるものとする。
- (2) 書式は日本文化人類学会機関誌『文化人類学』の規定に準ずるものとする。
- (3) 原稿の募集は原則として毎年4月・5月とする。原稿提出期限は原則として毎年10月末日とするが、原稿募集の際、年度ごとに通知する。
- (4) 投稿者は、電子ファイル（MS Word）で作成した原稿をメールに添付し、所定の提出期限までに提出すること。なお、査読後の最終原稿に関しては、電子ファイルおよび紙媒体を提出すること。

2023年度社会人類学教室 卒業論文・修士論文・博士論文一覧

卒業論文（東京都立大学人文社会学部人間社会学科社会人類学教室）

氏名	論文タイトル	指導教員
笹野 海	インドネシア人技能実習生がみた日本 ——「収まり」と「はみ出し」の狭間で——	綾部真雄
梅木元明	関東でラーメン屋台を営む人の変遷と実態 ——「持たざる者」から「持つ者」へ——	田沼幸子
君塚桃波	「ゲーム実況動画」の魅力 ——ファンの私見から——	田沼幸子
武藤 航	グロテスク観念再考 ——『メイドインアビス』における痛みと苦しみの扱われ方を通じて——	田沼幸子
菅原匠海	スクリーンの先の彼ら、スクリーンの中の世界 —— Coppola とスコセッシの映画作品がイタリア系アメリカ人として描き出すことについて——	石田慎一郎
谷口遼太郎	語り難い経験をいかに街の匂いをして語り得るのか —— 人類学的アプローチによる吉祥寺のスメルスケープ——	石田慎一郎
佐治真結香	学校制服とジェンダー認識の変容 —— ジェンダーレス制服過渡期の地方公立中学校の事例から——	深山直子
西澤映里	画像生成AIによって変わりゆく芸術の価値観	深山直子
廣神誠悟	だれが少年野球を支えているのか —— 東京都武蔵野市にあるチームの事例から——	深山直子
藤澤まりの	血液を抜かれ、提供するとはどういうことか —— 血液事業関係者および若年層献血対象者の視点から——	深山直子
川崎藍花	「未熟さ」の消失？ —— アイドルの「神」的側面と「人間」的側面をめぐる変容——	河合洋尚
野村直史	美瑛の丘をめぐる表象と景観変遷 —— 写真家の役割を中心に——	河合洋尚
市川陽菜	新語の普及による対人関係の意味付け —— 「蛙化現象」の事例を通して——	河野正治
関本佳代	競馬場の居場所論 —— 中央競馬の事例から——	河野正治

修士論文（東京都立大学大学院人文科学研究科社会行動学専攻社会人類学教室）

氏名	論文タイトル	指導教員
柿倉圭吾	アントレプレナーシップの在地性 ——日本のスタートアップ企業にみる「不確実性」との向き合い方——	綾部真雄
田村あすか	韓国代案学校の人類学的研究 ——教師と生徒による語りを事例に——	田沼幸子
松下大朗	「合唱する」こと、歌い続けること ——アマチュア合唱団でのオートエスノグラフィーから——	田沼幸子
松岡竜大	FGM/Cの変容と女性のエンパワーメント ——ケニア・メル地域のFGM/Cに関する人類学的儀礼研究——	石田慎一郎
平松咲織	異文化料理のイメージ化と＜空間＞創出 ——長崎・卓袱料理を例に——	河合洋尚

博士論文（東京都立大学大学院人文科学研究科社会行動学専攻社会人類学教室）

氏名	論文タイトル	主査
寺尾 萌	モンゴル西部牧畜地域における「出会い」の技法に関する人類学的研究	綾部真雄

2023年度社会人類学教室教員業績一覧
(2023年4月～2024年3月)

綾部 真雄 (教授)

単編著	2024 <第9章 民族とエスニシティ>「民族とはなにか」「民族をめぐる語彙」「本質主義と構築主義」「エスニシティ」「エスニック・アイデンティティ」「民族と国家」『よくわかる文化人類学 第3版』(綾部恒雄・桑山敬己編) ミネルヴァ書房 (近刊)
論文	2023 「現代タイ先住民事情—出来事史から読み解く「先住民」運動の誕生と変遷—(1)」『タイ国事情』57 (4) : 53-61。 2024 「現代タイ先住民事情—出来事史から読み解く「先住民」運動の誕生と変遷—(2)」『タイ国事情』58 (1) : 47-59。
口頭発表	2023 公開シンポジウム「外国へつながる子供たちの教育と明日—ポーランドにおける移民・難民受け入れの現状から考える—」(モデレータ) 第44回異文化間教育学会、6月11日 (東京都立大学) 2023 Crafting a Way Out of Marginalization: The Lisu in the Thai Highlands and Vernacularly Embedded Sensemaking, IUAES World Congress 2023, Delhi, Oct. 17 th .
その他	2023 高野秀行氏講義「ブリコラージュ的言語学習法」「探検的取材とリスク回避ソマリア海賊取材の事例から」(司会・対談) 東京都立大学グローバル教養講座、8月9日。 2023 「ストリートスマートのための文化人類学」第19回みやこ祭り模擬講義 (東京都立大学)、11月2日。 <受賞>『フィールドから地球を学ぶ—地理授業のための60のエピソード』(横山・湖中・綾部他編) 古今書院、2023.により2023年度 (第3回) 日本地理教育学会出版文化章を受賞。

田沼 幸子 (准教授)

単編著	2024 (近刊)「グローバルと教育—日本、キューバ、スペインの暮らしのなかから考える」内海博文編『第三巻『グローバル化と時空 (2) : アメリカ州・オセアニア・ヨーロッパ州編』東信堂。
論文	2023 「それでも書く、そして笑う—内藤順子『取るに足りないものたちの民族誌 チリにおける開発支援をめぐる人類学』を通じて」『人文学報』520-2 : 1-22。
口頭発表	2023 「革命の子どもたちが親になる時」(プロジェクト・ワークスPJ06) カルチュラル・タイフーン、早稲田大学9月2、3日 (土日)。

	2023 現代文化人類学研究会第3回定例研究会『取るに足りないものたちの民族誌——チリにおける開発支援をめぐる人類学』合評会、早稲田大学戸山キャンパス32号館225号室、ハイフレックス方式、10月30日（月）。
その他	2023 Welcome remarks TMU-MSU Denver Anthropology Workshop（東京都立大学社会人類学国際交流イベント）東京都立大学国際交流会館、5月26日（金）。 2023（レオニード・ロベスと担当）「キューバの冠婚葬祭」東京都立大学オープンユニバーシティ 2023年度夏季プレミアム講座（飯田橋キャンパス）9月25日。 2023 出張講義「まだ分からないから、探しに行く」立川国際中等教育学校、11月1日（水）。 2023 閉会の言葉 2023年度 日本文化人類学会 次世代育成セミナー東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 文化／社会人類学セミナー、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 12月9日（土）。 2023 〔書評〕「民族誌的ドキュメンタリー制作を「女子一生の仕事」としたディレクターの類稀なる自伝的一代記」『図書新聞』3595号（発売日2023年06月10日）（市岡康子『アジア太平洋の民族を撮る——「すばらしい世界旅行」のフィールドワーク』弘文堂、2023年書評）。 2023 「ネオリベを民族誌的に共同研究してみた」『民博通信Online』8：26-27。 2023 〔事典〕「キューバ」（レオニード・ロベスと共著）、川田牧人・松田素二（編）田沼幸子 編集協力、『世界の冠婚葬祭事典』丸善出版（pp.328-331）。

石田 慎一郎（教授）

単編著	2024 <i>Feathers, Horns and Guardians: A Study of Social Transition in an African Community</i> . Kyoto University Press and Trans Pacific Press.
論文	2023 ‘Anthropology, indigenous methodology, and the restatement of African laws: Lessons from research collaborations in Kenya’ <i>Legal Pluralism and Critical Social Analysis</i> 55 (3) : 321-338. 2023 「裁判官の熟慮と直感——アフリカ民族誌の比較視点」『現代思想』51 (9) : 92-101。 2024 「企画趣旨：法の権力と法の現場」『法社会学』90。
口頭発表	2023 「企画趣旨：法の権力と法の現場」日本法社会学会2023年度学術大会、2023年5月14日（名古屋大学）。 2023 「法人類学の視点：千葉正士の新旧法主体論とアフリカ民族誌の寄与」アジア法学会設立20周年記念シンポジウム「アジア・アフリカ諸国における「賢者」としての裁判官」、2023年6月17日（東京大学）。 2023 「千葉理論を読む／読み直す」法理学研究会、2023年12月16日（京都大学）。

	2024 「アフリカ民族誌を出来事の連なりで書く——願望と可能性を語る質的探究の試み」神戸大学社会人類学研究会、2024年2月28日（神戸大学）。 「山羊と羊、言葉と水——東アフリカ農牧民の世界観」台東区ゆとり教養講座、2024年2月21日（台東区橋場老人福祉館）。
その他	2024 「書評：Kiyoshi Umeya, <i>The Gospel Sounds like the Witch's Spell: Dealing with Misfortune among the Jopadhola of Eastern Uganda</i> 」『地域研究JCAS Review』23 (1)。

深山 直子（准教授）

論文	2023 「先住民マオリのアオテアロア・ニュージーランド史」、中野聡・安村直己・棚橋訓（編）、『岩波講座世界歴史第19巻 太平洋海域世界——～20世紀』、岩波書店、pp. 155-170。 2023 「先住民運動の挑戦——新たな政治制度を目指して」（大村敬一と共著）、大村敬一（編）、『文化人類学の最前線——「人新世」時代を生き抜く』、以文社（近刊）、pp. 91-122。
口頭発表	2023 「先住民と研究倫理——アオテアロア・ニュージーランドの場合」日本文化人類学会第4回倫理委員会特別シンポジウム「文化人類学（者）の引き受ける責任／変化の可能性」、2023年4月8日（オンライン）。 2023 「島の景観を想起する——久米島の2集落に着目して」空間論研究会、2023年5月10日（オンライン）。 2023 「先住民からみるアオテアロア・ニュージーランドと日本」日本ニュージーランド学会第30回研究大会、2023年6月17日（東北公益文科大学）。 2023 「テ・ババと二文化主義」科研費・挑戦的研究（萌芽）・20K20746「国立博物館における先住民族の権利実現の可能性と課題——アイヌとマオリの比較研究」2023年7月1日（オンライン）。 2023 “Recutting” and reorganizing the atoll islands: Embedded resilience to the natural disaster of Pukapuka. (Values, Threats and Promises: Environmental Perspective on (In)Tangible Cultural Heritage (P088))、2023年10月19日（オンライン）。 2023 「開発に直面する先住民族の協議・FPICに関する国際比較研究プロジェクトの構想」国際開発学会第34回全国大会、2023年11月11日（上智大学）。※寺内大佐・小坂田裕子・深山直子で共同発表 2023 「国際人権法学×社会人類学——ニュージーランドから考える」シンポジウム『『考えてみよう 先住民族と法』にみる学際的研究の可能性と課題』、2023年11月18日（西南学院大学）。

その他	2023	「知的財産権の可能性と困難——NZ先住民族マオリの場合」ワークショップ「世界の先住民族と観光」、2023年6月10日（阿寒町緑町生活館）。
	2023	「過去見つめた先の豊かさ」「オピニオン&フォーラム——アイヌ民族と私たち耕論」6月15日朝日新聞・朝刊13面（インタビュー記事）。
	2023	「マオリ研究の変遷からみたこれからの教育の役割」（コメント）シンポジウム「対話：『先住民族の包摂』と『先住民族化』の間で——アオテアロア／ニュージーランド・マオリの人々の『声』を聞くために」、2023年11月11日（オンライン）。
	2023	〔事典〕「マオリ語」「環境運動（ニュージーランド）」都市のマラエ（ニュージーランド）「マヌカハニー（ニュージーランド）」「彫刻（ニュージーランド・マオリ）」「ネットボール」、須藤健一・山本真鳥（編集顧問）、『オセアニア文化事典』、丸善出版（近刊）。 ※編集幹事兼編集委員
	2023	〔事典〕「マオリ」、川田牧人・松田素二（編）、『世界の冠婚葬祭事典』丸善出版（近刊）。

河合 洋尚（准教授）

単編著	2023	河合洋尚編・王恵訳『景観人類学——身体・表象・物質性』広州：華南理工大学出版社。
	2023	張維安・河合洋尚編『族群与客家研究理論』新竹：国立陽明交通大学出版社。
	2023	河合洋尚・松本雄一・山本陸編『景観で考える——人類学と考古学からのアプローチ』臨川書店。
	2024	『南太平洋の中国人社会——客家、本地人と新移民』（海域アジアオセアニア・ブックレット）風響社。
	2024	河合洋尚・奈良雅史・韓敏編『中国民族誌学——100年の軌跡と展望』風響社。
	2024	「景観」『よくわかる文化人類学 第3版』（綾部恒雄・桑山敬己編）ミネルヴァ書房（近刊）
論文	2023	「客家菜系的「誕生」——中国東南部食物景観的形成」（黄怡筠訳）蕭新煌・周錦宏・張維安（編）『客家飲食文化的跨国経験』苗栗：客家文化發展中心、pp. 217-250。
口頭発表	2023	「守られゆく景観——ホノルルの客家会館はなぜ『生きる文化遺産』であり続けているのか？」生きる文化遺産研究会、2023年4月1日（オンライン）。

	<p>2023 「食・身体・住居空間——広東省の客家と潮州人を例に」人間文化研究機構グローバル地域研究研究会「近現代における食の空間と住まいの変容」、2023年5月27日（金沢大学／オンライン）。</p> <p>2023 「宗族とは何か——客家地域のフィールドから考え直す」慶応大学東アジア研究所講座「歴史のなかの中国社会——疎外と連帯」、2023年6月9日（慶応大学）。</p> <p>2023 「現代中国のまちづくり——広東省の「故郷」建設を中心として」山口大学人文学部異文化交流研究施設講演会、2023年12月15日（山口大学）。</p> <p>2023 「趣旨説明」東アジア人類学研究会記念シンポジウム、南山大学、2023年12月26日（南山大学）。</p>
その他	<p>2023 「中国民族誌学と文明の人類学」『民博通信Online』8：10-11。</p> <p>2023 「サモア初訪問記——サモアで中国とアジアの影響をみる」『海域アジア・オセアニアNEWS LETTER』1：43-46。</p> <p><受賞></p> <p>2023 第38回大同生命地域研究奨励賞。</p>

河野 正治（准教授）

論文	<p>2023 「世帯間の贈与交換にみる消費の論理と倫理——ポーンペイ島におけるクリスマスプレゼントの事例から」『日本オセアニア学会NEWSLETTER』136：1-14。</p> <p>2024 （塚原伸治・菅豊との共著）「結節点としてのヴァナキュラー概念——文化人類学と民俗学の対話可能性に向けた一試論」『人文学報』520-2：23-42。</p> <p>2024 「西洋人にルーツを求める系譜語り——ミクロネシア連邦ポーンペイ島の親族関係にみる他者接触と史実性」風間計博（編）『記憶と歴史の人類学——東南アジア・オセアニア島嶼部における戦争・移住・他者接触の経験』東京：風響社、pp. 307-324。</p> <p>2024 （中丸麻由子と共著）「儀礼経済の複雑性を捉えるために——ミクロネシアにおける文化人類学と数理生物学の協働の試み」『日本オセアニア学会NEWSLETTER』138（近刊）。</p>
口頭発表	<p>2023 「21世紀の人類学的欲待論に向けて——アジア・オセアニアの海域島嶼地域における同時代的状況を手掛かりに」科研プロジェクト「現代アジア・オセアニアにおける他者への想像力と欲待の実践知に関する人類学的研究」第1回研究会、2023年5月21日（成城大学）。</p> <p>※科学研究費補助金基盤研究B研究課題「現代アジア・オセアニアにおける他者への想像力と欲待の実践知に関する人類学的研究」（課題番号23H00738、研究代表者：河野正治）</p>

	<p>2023 「異なる負債の論理が延伸される時——ミクロネシア連邦ポーンペイ島における「負うこと」の多元性と交錯する諸概念」日本文化人類学会・第57回研究大会、2023年6月3日（広島大学）。</p> <p>2023 「異なる意思決定と異なるインフラ——ミクロネシア経済実験に対する人類学の立場からの応答」科研プロジェクト「太平洋島嶼国の貨幣と市場制度の生成と発展に関する研究：理論と実験」研究会、2023年8月10日（早稲田大学）。</p> <p>※科学研究費補助金基盤研究A研究課題「太平洋島嶼国の貨幣と市場制度の生成と発展に関する研究：理論と実験」（課題番号18H03641、研究代表者：佐々木宏夫、早稲田大学）</p> <p>2023 （塚原伸治と共同発表）「趣旨説明」東文研セミナー「公式な秩序／ヴァナキュラーな秩序——政治経済の民俗学的転回に向けて」、2023年12月9日（東京大学東洋文化研究所）</p> <p>2023 「硬直した政治権威と生まれゆくヴァナキュラーなもの——ミクロネシア人類学から考える「伝統政治」と民衆の想像力／創造力」東文研セミナー「公式な秩序／ヴァナキュラーな秩序——政治経済の民俗学的転回に向けて」、2023年12月9日（東京大学東洋文化研究所）</p> <p>2024 「縮図としての祭宴——ミクロネシア連邦ポーンペイ島における中国の海洋進出と土着の歓待実践」科研プロジェクト「現代アジア・オセアニアにおける他者への想像力と歓待の実践知に関する人類学的研究」第2回研究会、2024年3月2日（鹿児島大学）</p> <p>※科学研究費補助金基盤研究B研究課題「現代アジア・オセアニアにおける他者への想像力と歓待の実践知に関する人類学的研究」（課題番号23H00738、研究代表者：河野正治）</p>
その他	<p>2023 〔事典〕「ミクロネシア（ポーンペイ）」川田牧人・松田素二（編）『世界の冠婚葬祭事典』丸善出版、pp. 208-211。</p> <p>2024 〔研究会報告〕（塚原伸治と共著）「政治経済の民俗学的転回に向けて」『現代民俗学研究』16（近刊）</p> <p>2023 〔コメント〕高瀬浩一・中丸麻由子・及川浩希・大川内隆朗・佐々木宏夫・瀋俊毅・山邑絃史・大和毅彦「ミクロネシアにおけるパイロット経済実験——グアムと日本との比較」太平洋諸島学会・第10回研究大会、7月8日（早稲田大学）</p>

澤井 充生（助教）

単編著	2024 『現代中国のハラール産業復興における民俗知のレジリエンス——少数民族の生存戦略の模索』東京都立大学（印刷：美巧社）。
-----	---

	<p>※2023年度科学研究費補助金基盤研究C研究課題「現代中国のハラール産業復興における民俗知のレジリエンス——少数民族の生存戦略の模索」（課題番号21K01085、研究代表者：澤井充生、東京都立大学）成果報告書</p>
論文	<p>2023 「動物をほふる民俗知の実践——屠畜をめぐる比較民族誌」『文化人類学』88（1）：44-55。</p> <p>2023 「預言者を模倣し、自力供犠を敢行する——〈正しいイスラーム〉を追求するための民俗知の実践」『文化人類学』88（1）：76-94。</p> <p>2023 「回族」『中央ユーラシア文化事典』小松久男編 丸善出版。</p> <p>2024 「屠畜は〈改革〉されるべきなのか——近現代中国の屠場における回民の伝統習俗」『人文学報』520-2：43-66。</p>
口頭発表	<p>2023 「日本人と中国ムスリムの邂逅——日本人の記録資料から読み解く」（特別公開文化講座；於：東京ジャーミイ）（5月27日）</p>
その他	<p>2023 「コメント」駒沢宗教学研究会ミニパネルセッション「チベット仏教社会における肉食と不殺生——最新のフィールドワークに基づく報告」（発表者：別所裕介、宮本万里；於：駒沢大学）（7月15日）</p> <p>2023 「企画・運営」「グローバル時代におけるハラール基準の標準化と多様性の動態」2023年度第1回研究会（7月22日）※オンライン開催 ※2023年度科学研究費補助金基盤研究B研究課題「グローバル時代におけるハラール基準の標準化と多様性の動態」（課題番号1186395、研究代表者：大形里美、九州国際大学）</p> <p>2023 「企画・運営」「グローバル時代におけるハラール基準の標準化と多様性の動態」2023年度第2回研究会（11月7日）※オンライン開催 ※2023年度科学研究費補助金基盤研究B研究課題「グローバル時代におけるハラール基準の標準化と多様性の動態」（課題番号1186395、研究代表者：大形里美、九州国際大学）</p> <p>2023 「企画・運営」「グローバル時代におけるハラール基準の標準化と多様性の動態」2023年度第3回研究会（12月5日）※オンライン開催 ※2023年度科学研究費補助金基盤研究B研究課題「グローバル時代におけるハラール基準の標準化と多様性の動態」（課題番号1186395、研究代表者：大形里美、九州国際大学）</p> <p>2024 「企画・運営」第3回国際ワークショップStandardization of Halal Standards and Dynamics of Diversity in the Global Era（於：アジア経済研究所）（1月21日）※ハイフレックス開催 ※2023年度科学研究費補助金基盤研究B研究課題「グローバル時代におけるハラール基準の標準化と多様性の動態」（課題番号1186395、研究代表者：大形里美、九州国際大学）</p>

2023年度社会人類学教室学事日程
(2023年4月～2024年3月)

4月	
4月6日(水)	学部新2年生ガイダンス 卒業論文ガイダンス 大学院新入生ガイダンス 日本学術振興会特別研究員対策説明会
5月	
5月26日(金)	メトロポリタン州立大学デーパーとの交流発表会
6月	
6月3日(土)	日本文化人類学会第57回研究大会
6月4日(日)	日本文化人類学会第57回研究大会
7月	
7月7日(金)	修士論文中間発表会
7月8日(土)	大学院説明会
7月17日(月)	学部説明会
7月21日(金)	修士論文中間発表会
7月27日(木)	卒業論文中間発表会
9月	
9月25日(月)	大学院入試(博士前期課程)
9月26日(火)	大学院入試(博士前期課程)
10月	
10月17日(火)	学部1年生対象教室別所属決定ガイダンス
11月	
11月9日(木)	学部1年生対象教室別所属決定ガイダンス
12月	
12月7日(木)	卒業論文指導教授ガイダンス
12月22日(金)	博士論文口頭試問 修士論文構想発表会
1月	
1月25日(木)	卒業論文発表会
2月	
2月1日(木)	修士論文口頭試問
2月17日(土)	大学院入試(博士前期課程)
2月18日(日)	大学院入試(博士前期課程)
2月19日(月)	大学院入試(博士後期課程)
3月	
3月21日(木)	卒業式・修了式
3月29日(金)	部局間交流シンポジウム(フィールドワーク・リサーチ・ラボ主催)

令和6年3月22日 印刷

令和6年3月22日 発行

「人文学報」 第520-2号

非売品

東京都八王子市南大沢1丁目1番地

編集・発行者 東京都立大学 人文科学研究科
人文学報編集委員会

代表者 源川真希

株式会社 美巧社

東京都豊島区駒込1-35-4

石油系溶剤を含まないインキを使用しています。
再生紙を使用しています。



古紙配合率70%
白色度70%再生紙を使用しています